



Beyond KUSS, 2022 !!



「志望力」・「出願力」・「進学力」

昨日11月10日(水)締切で一般選抜に関する調査を行いました。残念ながら、30%程度の方が未提出です。それだけ悩んでいるという風に理解しています。「第1志望」設定の支援、「第1志望」突破の支援、この2つの支援が進路指導の基本的な考え方です。8回生は「第1志望を実現する」時期、まっただ中です。

本校では生徒ひとりひとりが卒業研究(課題研究)に取り組むことにより、卒業後のステージについて考える機会を設けています。教科・科目の十分な力とリサーチリテラシーを十分に身につけ卒業研究(課題研究)に取り組むことにより、大学進学後のミスマッチを回避することをめざしています。

「第1志望」の設定はできていますか。特別選抜で「第1志望」以外の大学に出願している人が4割近くいます。「志望力」(大学に向かう力)、「出願力」(大学に挑戦する力)、「進学力」(大学で学び続ける力)が受験では問われます。「志望力」が堅牢でないと、「出願力」や「進学力」を発揮することはできません。「第1志望」以外の大学に出願する場合、合格可能性を高める(浪人する可能性を低くする)ことを意識していると思います。しかし、本当にそれは実現できるのでしょうか。

右表は、関西圏主要私立大学の一般選抜入学者の比率を示しています(各大学HPより作成。一般選抜入学者に共通テスト利用方式も含む)。入学者の4割~6割は特別選抜で確保しています。「第1志望」

| 一般選抜入学率 | 2019 | 2020 | 2021 |
|---------|------|------|------|
| 関西学院 | 36.6 | 34.6 | 40.5 |
| 関西 | 51.0 | 49.9 | 50.2 |
| 同志社 | 51.6 | 50.5 | 52.1 |
| 立命館 | 60.9 | 61.2 | 63.1 |

の大学が特別選抜を実施していれば、チャレンジすることを勧める一因です。

一般選抜は、国公立大学前期・後期日程、公立大学中期日程、私立大学各種方式が対象です。「出願力」を発揮できるかどうか、受験を左右します。「合格しないかもしれない症候群」に襲われている人、合格可能性を高める(浪人する可能性を低くする)ことを最優先にすればするほど、出願は混乱します。すべて不合格になる場合もあるし、合格しても「なぜこの大学を受験したのだろう??」と後悔することさえあります。そうすると「進学力」(大学で学び続ける力)を発揮することができず、大学生活が混乱したままのスタートになります。

出願は、「第1志望」の大学に合格することを最優先に考えましょう。「第1志望」が国公立大学の場合、私立大学への出願は慎重に考えるべきです。共通テスト後の約40日を「第1志望」以外の大学の受験のために費やす余裕がありますか。「練習のために受験する」という人もいます。出題形式・傾向も異なり、受験会場の雰囲気もまったく異なります。練習になることはありません。また、併願しても不合格になる可能性は十分にあります。

「第1志望」の国公立大学が特定の日程しか募集していない場合、その日程以外の出願は本当に必要ですか。出願を考えている大学は、「進学力」を発揮できる大学ですか。

「第1志望」の大学に合格することを最優先せず、「どこか」の大学に合格することを最優先にすると、必ずひずみが発生します。出願が混乱すると、新たなステージでの幸福度はどんどん低くなります。「志望力」・「出願力」に不安がある人、先生方と十分に相談し、「志望力」・「出願力」を維持しましょう。不安とうまく共存する人が「進学力」を発揮できます。

<保護者の方々にも読んでいただきたいよう>

『Beyond KUSS, 2022!』の内容について、SNS等webへのアップや無断使用しないようお願いします。